

京都マテリアルズ・長瀬産業 京都市の橋梁に特殊塗料を施工



従来の塗料と同じように取扱うことができることも特徴のひとつ

株式会社京都マテリアルズ(京都市西京区、山下正人社長)は、このほど京都市中京区の市が管理する橋りょうへ、同社が開発した特殊塗料「Pat!naLock(パティーナロック)」を施工した。

施工を行ったのは「Pat!naLock」の製造販売のライセンス契約を結んだ長瀬産業株式会社(東京都中央区、朝倉研二社長)で、今後も共同で研究開発を進め国内および海外での事業展開を目指す。

「Pat!naLock」は従来の防食塗料と異なり、鋼材の表面に微妙かつ強固な腐食膜層を形成させ、耐食性を向上させる反応性塗料。Pat!naは英語で「さび」を意味する。同塗料はさびによる腐食が発生している既存の構造物へも簡単な前処理で適用が可能なのが特徴。耐食

性が従来品と比べ飛躍的に向上することや、インフラ構造物のライフサイクルコストを大幅に低減することなど高い技術が評価され、第6回「ものづくり日本大賞」の特別賞、京都市ベンチャー企業目利き委員会Aランク認定を受賞した。

山下正人京都マテリアルズ社長は「長瀬産業はもともと京都在発祥の企業。今後は同社の力を借りながら、さらに社会に貢献できる製品を作っていくきたい」と話し、今回施工を担当した長瀬産業の宇木則倫機能化学事業部コーティング材料部リーダーも「Pat!naは『さびでさびを制する』という、これまでになかった発想で開発された世界初の製品。特に沿岸部など腐食被害の多いところで特に性能が発揮できる」と今後の展開に期待を寄せる。